

# ばれっと

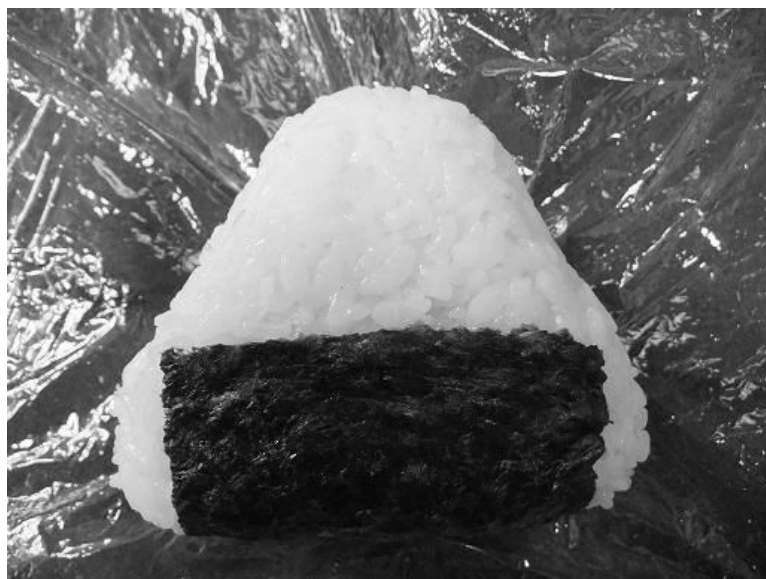
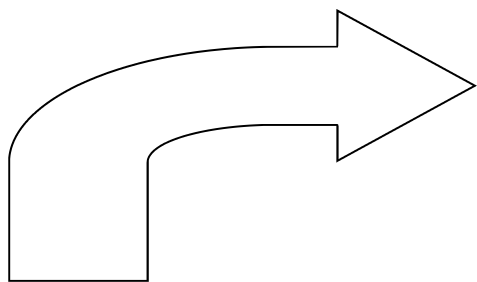
2010  
**10**月  
No.134

**P2~3 すぽっとらいと**

あがいん

『NPO法人 ふうどばんく東北AGAIN』

**必要なところに必要な食糧を届ける「橋渡し役」を担う**



左の「ふうどばんく東北AGAIN」のロゴをご覧ください。  
「AGAIN」の「A」がおむすびになっている理由は「食べ物を通じて、“あげたい人”と“ほしい人”の間を結ぶ存在になりたい」という思いがこめられているから…。

ちなみに「あがいん」とは、仙台弁で「どうぞお召し上がりください」という意味です。

## <目次>

- P4… サポちゃんで行く骨工口施設見学！ 青年文化センターの巻
- … サポ本を読もう！～今回は特別編～ 『サポセン委託販売図書紹介』
- P5… 事業報告『ステップアップ講座・出前サポセン』 お知らせ
- P6… サポセンカレンダー

# すぽっとらいと

◆仙台市内で活動している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

## 必要なところに必要な食糧を届ける「橋渡し役」を担う

あがいん

## NPO法人ふうどばんく東北AGAIN

品質には問題がないにもかかわらず廃棄されてしまう食品を、必要な施設へ寄贈する活動を行う「NPO法人ふうどばんく東北AGAIN」。団体設立の経緯からこれまでの活動と今後の目標を、代表の川崎さん・理事の高橋さん・事務局の中村さんに伺いました。



▲左から事務局の中村さん、代表の川崎さん、理事の高橋さん

### ●「フードバンク」とは？

みなさんはフードバンクという活動をご存知でしょうか？フードバンクとは、品質に問題がないにもかかわらず、包装の傷みなどにより市場で流通出来なくなった食品を食品会社などから寄付してもらい、「それがあれば助かる」という人たちに無償で届けるという活動です。もちろん、賞味期限が切れていない、安全に食べられる食品が大前提です。

活動が始まった背景には、食料の廃棄と貧困の問題があります。日本では毎年500万トン～900万トンの食べ物が、まだ安全に食べられるにも関わらず廃棄されています。一方で、日本でも貧困層として食べ物に困る生活を強いられている人たちが数十万人いるそうです。

この課題を解決するため、2000年頃から全国各地でフードバンクが誕生しました。

### ●「誰かがやるだろう」ではなく、「自分がやる」

NPO法人ふうどばんく東北AGAIN（以下、AGAIN）代表の川崎さんは多賀城市でパン店「こうあん」を構えながら、フードバンクの活動をしています。

フードバンクに興味を持つようになったきっかけを伺うと、「32年間パン屋に勤めてきて、まだ食べられるパンが捨てられていくのを目のあたりにしてきました。その一方で、食べ物に困っている人が増えている現実もあります。食べ物の廃棄や貧困の問題が新聞やテレビで取り上げられるたびに、“このままではいけない”という思いがずっとありました」とおっしゃっていました。そして、ある時東京に「フードバンク」という活動があることを知り、宮城県内にも同じような団体がないか探したそうですが、見つからなかったとのことでした。

立上げのきっかけになったのは、ホームレス支援をしているNPO法人「ワンファミリー仙台」の立岡さんとの出会いでした。若くして団体を立ち上げて頑張っている立岡さんの姿をみて、自分

も食べ物に携わってきた者として、「誰かがやるのを待つのではなく、自分がやらなくてはという思いにさせられた」と川崎さん。偶然の出会いから、お互いの想いを話し合い、そこからすぐに準備委員会が立ち上がりました。2008年11月に任意団体として発足、2009年7月にはNPO法人化しました。

### ●衣食住のセーフティーネット

立ち上げから2年の間、AGAINはフードドライブ（注：ミニ情報参照）といったイベントを開催したり、同じような思いをもつ他団体のイベントに参加したりしてきました。その中で、AGAINには様々な分野の人々が集い始めました。衣料を届けるNPO法人「未来環境福祉ネットワーク」、食糧を届けるNPO法人「ふうどばんく東北AGAIN」、住環境を提供するNPO法人「ワンファミリー仙台」。この三者の連携が生まれ、生活困窮者を衣食住の各分野からサポートすることができるようになりました。「衣食住のセーフティーネットができたというのが一番大きい」と川崎さん。こういった「つながり」ができてきたことが2年間の成果だとのことでした。

### ●事務局体制の強化

AGAINが現在もっとも力を入れていることは、事務局体制の強化だそうです。その理由を団体立ち上げから活動に参加している高橋さんに伺うと「フードバンクの活動の中で重要となる“食品提供者・受取先・配送ボランティア”の仕組みをつくっていききたい。自分たちができる範囲で受け入れ、受け取ったものを責任を持って管理できる体制が必要なんです。そして、この“できる範囲”を広げていくために事務局体制の強化に力を入れています」と力強くお話ししてくださいました。

その事務局体制を整えるにあたり、AGAINは仙台市市民活動サポートセンター（以下、サポセン）をフルに活用しています。また、寄付された食品を保管するための倉庫を無償提供してくれているみやぎ生協が、事務局強化にも協力してく

れました。事務局の専任スタッフとして、みやぎ生協から派遣されている中村さんは、「街中で集まりやすいのが便利です。今まではレターケースを外部やメンバー間のやり取りに使ってきました。さらに9月からは事務用ブースを借りています。企業や行政、NPOとの関わりが重要な活動内容なので、サポセンのさまざまな機能を活用していきたいです」とおっしゃいます。これからもサポセンを一つの拠点として、フードバンクの活動の輪を広げていきたいとのことでした。



▲事務用ブース活用中（会議中です）

## ●フードバンクの広がり

フードバンクの活動が全国的に活発化してきたのは、ここ2～3年の間。東京で活動するNPO法人「セカンド・ハーベスト・ジャパン」の声掛けで、全国のフードバンクのネットワークを作る動きがあるそうです。農林水産省も全国のフードバンクの活動実態調査をし、活動をバックアップする動きがでてきているとのことでした。

「フードバンクは、“食”という誰にとっても身近なテーマなので、いろいろな人に関心や共感を持っていただける活動なんです。私たちの活動を通して、フードバンクを理解していただいて、これからも活動の輪を広げていきたいですね」と川崎さんのAGAINへの思いをお話ししてくださいました。

個人や企業の社会貢献の新しい形としても、今後ますます関心を集めていくことになりそうですね。

## ★★ 取材を終えて

川崎さんの「誰かがやるまで待つのではなく、自分がやるんだ」という熱い想いに感動しました。その熱い想いに突き動かされて、AGAINの活動には、多くの賛同者が生まれ、多種多様なネットワークができてきたのだと思いました。

フードバンクは誰でも参加できる活動です。この記事を見て、フードバンクに興味を持ち、「自分ならこう関われる」と思う人が増える一助になればとても嬉しいです。（担当：吉田 祐也）

## <団体情報>

あがいん

### NPO法人ふうとばんく東北AGAIN

価値があるにも関わらず廃棄処分されそうな食べ物を無償提供してもらい、責任をもって点検・整理し生活困窮者へ届ける活動をしています。

仙台市のホームレス支援団体、NPO法人「ワンファミリー仙台」や多賀城市のパン店「こうあん」など約20の団体・個人が集まり設立しました。

現在、食品を無償提供してくれる企業や個人、食品運搬のサポーターを募集しています。

#### ■ 連絡先

〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3

レターケースNo.39

TEL：022-722-7572

FAX：022-722-7573

HP：<http://www.foodbank.or.jp/>

## <ミニ情報>

### ■フードバンクの活動「フードドライブ」とは？

フードドライブとは、家庭で保管している缶詰やレトルト食品など、保存性の高い食品を集めて、経済的理由などから食べることに困っている人や、食料確保が困難なホームレス支援団体・福祉団体に配り、支援する活動です。あなたの身の回りに余っている食品を、本当に必要な人に届けてみませんか？

常温で保存可能な、  
賞味期限の切れていないもの



▲フードドライブで扱える食品の例

### ■「世界食料デー」

世界の食料問題を考える日として国連が制定した日、それが毎年10月16日の「世界食料デー」です。世界の一人一人が協力しあい、世界に広がる栄養不良、飢餓、極度の貧困を解決していくことを目的としています。この日をきっかけとして、自分自身の生活を見つめなおし、少しでも世界の人々と共に生きる生き方を実践しようとする人が増えることを願って、「世界食料デー」は制定されました。

# サポちゃんで行く 骨プロ

## 『青年文化センター』の巻

### 仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）とは？

市民による情報の受発信を支援し、市民活動に関する情報を多くの市民に届けるため、サポセンを含め仙台市内の11の公共施設が協力して行うプロジェクトです。このコーナーでは、各施設で「骨プロ」がどのように活用されているのかをご紹介します。

仙台市青年文化センター（以下、青文）は、青年の文化活動及び交流の場を提供し、市民の文化及び教養の向上に役立つことを目的としている複合施設です。4つのホールのほか、多様なニーズに対応できる練習室、会議室、和室、茶室などがあります。今回は、総務課・企画調整係長の青野裕慈（あおのゆうじ）さんにお話を伺いました。

### ●「さりげなく」を演出

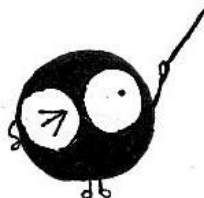
入口からまっすぐ奥へ進むと、突き当たりの壁に沿ってたくさんのチラシ類が並んでいます。そのまま右手に行った一角に、骨プロチラシがありました。「骨プロ」の表示はありますが、他のチラシと同じように配架されています。目線の流れを分断せず、自然に眺めて選び持っていくことができるようにという配慮です。

### ●情報発信の拠点

骨プロは、構想当初は市の中心部にある施設を対象にしていました。その情報を知り、「ぜひ青文も入れて欲しい」と手をあげたのが参加のきっかけだそうです。青文を情報発信の拠点と位置づけているため、「文化・芸術だけでなく、それ以外の分野も扱うことで、情報に厚みを持たせたほうが良い」と考えたからでした。

### 仙台市青年文化センター

仙台市青葉区旭ヶ丘  
3丁目27-5  
Tel:022-276-2110  
Fax:022-276-2108



▲音楽関連チラシの隣にある骨プロチラシ

### ●いろいろ利用できます

青文は、コンサートなどで利用されているイメージが強かったのですが、ホール以外にも練習室・会議室・調理室などがあります。「青文は発表の場というより、落ち着いてモノを作る場」とおっしゃる青野さん。有料の貸室以外にも、無料・予約なしで使えるスペース「パフォーマンス広場」があります。管楽器やダンスの個人練習などでよく利用されているそうです。

いろいろな年代の方が、さまざまな用途で利用をしている青文。文化芸術活動以外の利用もできます。イベントの準備や練習の場も確保したいという時に、落ち着いて取り組むことができる、おすすめの施設です。

（担当：菅野 祥子）

## 今月のサポ本

## 『サポセン委託販売図書紹介』

サポセンでは、NPOやボランティアグループの発行した本・成果物の委託販売も行っています。今回は、新しく取り扱うことになった3団体の本を紹介します。（担当：菅野祥子）

### 杜の都「青葉山」の今！ 青葉山自然観察ガイドブック

発行：青葉山の緑を守る会  
価格：1,000円

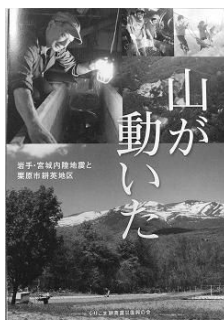
青葉山にはオオタカなどの希少種も含む多様な生き物たちがいます。後世に引継ぎたい、自然豊かな青葉山の魅力が満載です。



### 山が動いた ー岩手・宮城内陸地震と栗原市耕英地区ー

発行：くりこま耕英震災復興の会  
価格：1,000円

岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けた栗原市耕英地区の、震災から復興までの道のりを記録しました。



### 第12文集・初恋

### 第15文集・十二の奇跡

きらめく星座

発行：仙台文の会  
価格：各500円

今年4月9日に逝去された、井上ひさしさんから頂いたテーマで綴られた文集。期間限定です。



サポセン  
2010年度

# 7・8月実施事業報告

## 出前サポセン

### 2010せんだい地球フェスタ@仙台国際センター

日時：2010年7月19日(月・祝) 10:00~16:00  
場所：仙台市国際センター

サポセンの機能をご紹介するため、2007年度より実施している“出前サポセン”。今回は、昨年引き続き仙台国際センターで開催された“2010せんだい地球フェスタ”にお邪魔しました。

「ちょっとそこまで世界まで」をキャッチコピーに開催されたこのイベントは、世界のさまざまな文化を体験できる、国際色豊かな楽しいイベントです。多文化共生、国際交流、国際協力などで活躍する86団体が参加し、約5,000人の来場者がありました。

今回のサポセンブースは、3階ロビーでした。そのため、来場者の流れを心配したスタッフは、10時のオープンと同時に1階入口に陣取り、主催者と一緒に来場者をお迎えしながら、パンフレットを手渡し、サポセンを積極的にPRしました。

3階のブースでは、サポセンとシニア活動支援センターのパンフレットやイベントチラシを揃えて、来場者に対応。スタンプラリーの対象ブースにもなっていたため、親子連れで立ち寄る人も多く、特製のサポちゃんスタンプは大好評でした。

「サポセンへ行こう」と書かれたパンフレットを手にした方は、「サポセンって何？どこかの国？」「どこにあるの？」と、その反応もさまざまでした。

今回の出前サポセンをきっかけに、一人でも多くの方がサポセンに足を運んでいただき、市民活動に関心を持っていただければ、嬉しい限りです。  
(担当：伊藤 香)



## NPOステップアップ講座 Step1 ブログde情報発信

日時：2010年8月26日(木) 19:00~21:00  
場所：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール  
アドバイザー：小川 真美さん  
(特活) せんだい・みやぎNPOセンター 事務局次長

2010年度の人材育成事業のNPOステップアップ講座では「団体の情報発信力強化」をキーワードに3Stepで講座を開催しています。今回Step1として、ブログで団体情報を効果的に発信するコツをアドバイザーの小川さんより、わかりやすく解説していただきました。

情報発信をする目的の1つに、どんな活動をしている団体かを多くの人に知ってもらい、共感・信頼を得ることで、団体の支援者を増やしていくことがあります。ポイントは、①情報発信するターゲットを定める②受け取る側に価値ある情報は何かを考える③戦略を立て効果的にアピールすることです。その手段の一つにブログとホームページがあり、各々の特徴を把握した上で使い分けると非常に有効です。ブログではイベント告知などのフロー情報で読み手に感動を与え、ホームページでは団体の蓄積となる報告書・収支決算書などのストック情報で信頼を得ることが多くの方からの支援を獲得できるとのことでした。

最後に小川さんが実践している「読まれやすい団体ブログのコツ」をいくつか教えていただきました。活動内容や団体PRの更新頻度にも気を配り新鮮でタイムリーな情報発信に努めましょう。  
(担当：佐藤 秀之)



## お知らせ ●○● 事務用ブースに新しい団体が入居しました !!

6月に行われた事務用ブース入居団体募集により、新たに5団体が入居し、現在は10団体がブースに入居しています。今回は、新しく入居した団体をご紹介します。

### ○事務用ブースとは？

サポセン7階に設置されている、市民活動団体が簡易事務所として使用できるスペースです。この事務用ブースは、団体のインキュベート(※)を目的とし、入居団体が成長し巣立っていきけるよう、支援の場として設置しています。

(※) インキュベート：卵の孵化を意味する言葉。

### 9月からの NEW FACE

- NPO法人仙台交流分析協会
- 全国シェルターシンポジウム仙台実行委員会
- 広瀬川市民会議
- NPO法人ふうどばんく東北AGAIN
- NPO法人POSSE仙台支部

| 日 時                      | イベント内容                                                                                                                                                                         | 会場                  | 料金                                   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|--------------------------------------|
| 10月19日（火）<br>14:00～16:00 | <b>〇こらぼん協働相談所</b><br>行政と市民活動団体・NPOの協働について相談を受け付けます。<br>1団体1時間程度。<br>相談員：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター<br>常務理事・事務局長 紅邑 晶子さん<br>※仙台市市民協働推進課の職員、仙台市市民活動サポートセンター<br>のスタッフも同席して相談に対応します。 | 研修室1<br>（3F）        | 無料<br>（事前申込必要）                       |
| 10月24日（日）<br>10:00～15:00 | <b>〇出前サポセン@太白区中央市民センター</b><br>「ながまち交流フェスタ2010」にオ邪魔します。サポセンを紹介する展示とともに、「NPOって何だろう？」を解決するNPOミニいろは塾を開催します。                                                                        | 太白区<br>中央市民<br>センター | 無料<br>（事前申込不要）<br>※ミニいろは塾は<br>事前申込必要 |

## 仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

**< 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983**

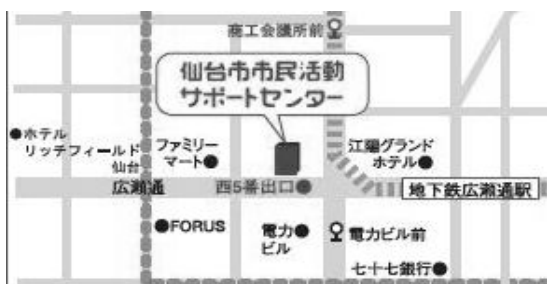
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

| 日 時                      | イベント内容                                                                                                                                                | 会場             | 料金               |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------|
| 10月23日（土）<br>13:30～16:30 | <b>◇思いを形にする講座(先着20名)</b><br>地域社会に貢献する活動の立ち上げや起業に取り組む際の心構えや具体的なノウハウなどについて学びます。<br>ゲスト：ヒューマン・サポート・カキョウ<br>主宰 鹿郷 健二さん                                    | 研修室 5<br>(4 F) | 500円<br>(事前申込必要) |
| 11月13日（土）<br>10:00～17:00 | <b>◆専門相談(先着5名／一組50分程度)</b><br>ブログ、情報紙で、自分の活動を発信したい方への個別相談<br>相談員：おかき＋（ぷらす） 葛西 淳子さん                                                                    | 研修室 1<br>(3 F) | 無料<br>(事前申込必要)   |
| 11月27日（土）<br>13:30～15:30 | <b>◇セカンドライフセミナー(先着15名)</b><br>定年退職後、充実した生活を送るために、経済面の考え方、生きがいづくりなどについて学びます。受講された方には、後日個別相談会（11/30（火）、12/4（土））にご参加いただけます。<br>講師・相談員：シニア元気笑学校 校長 渡辺源治さん | 研修室 5<br>(4 F) | 無料<br>(事前申込必要)   |

## ■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はありません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

〔最寄のバス停〕電力ビル前、商工会議所前  
〔地下鉄〕広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ **開館時間**

○平日 午前9時～午後10時

○日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

9/29 10/27

■ **編集後記** ◆すぽっくらいとに登場したAGAINさん。食べ物だけでなく、そこに託された想いも届ける！事務局体制をしっかり作るなど、誠実な運営をしてらっしゃいました。(菅野)

◆9月から事務用ブースがすべて埋まり、10団体が入居しています。分野も世代も異なる多様な団体が軒を連ねることで、新たな連携が生まれるのでは？と今から楽しみです。(太田)

発行: 仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年9月27日

編 集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：菅野祥子 太田貴

仙台市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]